

中小企業におけるクラウドソーシング活用 クラウドソーシングがもたらすオープン・イノベーションの可能性

[2014・FW] 21121049、佐々木哲哉

1. 研究の背景と意義

近年、企業のクラウドソーシング活用が進んできている。クラウドソーシングとは、インターネットを通じて仕事を不特定多数の人に委託する仕組みのことである。企業がクラウドソーシングを利用する利点は、従来よりも低費用で迅速に適材の労働力を見つけることにある。そのため、人材、資金力やノウハウ等の不足が経営課題である中小企業にとってクラウドソーシングは、不足する経営資源を補完し競争力を向上する上で適していると考えられる。

一方で、「クラウドソーシングの認知度及び利活用可能性についての調査」によると、クラウドソーシングを知らないという中小企業は74%と、認知度が低い。また、ネット上だけで行われる取引となるためクラウドソーシング活用には抵抗があるという企業も少なくなく、信頼性や有効性が理解されていない、と考えられる。中小企業がクラウドソーシングを活用する有用性を示すことを通じて、中小企業のクラウドソーシング活用を推進することが本研究の意義である。

更に、クラウドソーシング活用により外部と協働することで、自社だけでは取り組めない新たな商品・サービスの開発や新市場の開拓への挑戦など、オープン・イノベーションの可能性を検討する。

2. 研究目的・方法

本研究の目的は二つある。第1は、クラウドソーシングの概要を整理し中小企業におけるクラウドソーシング活用の利点を示すことである。第2に、中小企業におけるクラウドソーシング活用の利点の中でも、とりわけオープン・イノベーションの可能性を検討する。

研究方法としては、主に文献調査とする。クラウドソーシングの概要、特徴、中小企業経営の課題、オープン・イノベーション事例を文献またはインターネット上の情報にて調査研究を行う。

3. 研究結果・考察

先行研究により、中小企業の経営課題分析とクラウドソーシングの利点を対応させた結果、中小企業におけるクラウドソーシング活用の利点は以下の5点であることが判明した。

- ①必要な時に必要な労働力の確保が容易
- ②企業ブランド関係なく平等な人材雇用が可能
- ③人件費の変動費化によりコストリスクの低減
- ④取引コストの低減

⑤オープン・イノベーションを生み出す可能性

とりわけ、オープン・イノベーションを生み出す可能性が中小企業にとっては重要であることが解った。中小企業は、特定の分野で高い専門性を有する企業が存在し、自社と外部資源を融合させることによる相乗効果が期待される。製品のプロダクトサイクルが短くなってきているなど厳しい経営環境の中で、オープン・イノベーションへの取り組みが中小企業にとって重要である。中小企業において、オープン・イノベーションのための1つの方策として企業間連携があるが、連携する相手が見つからない、連携相手を見つけるのにも地理的な制限があるなどネットワーク力に課題がある。また、大企業のように、自社サイトに何百万人もの顧客を集め協力をしてもらうなど、顧客の優れたアイデアを事業に活かすことは困難だった。このような課題をクラウドソーシングサイトが、中小企業と外部の事業者又は生活者をつなぐ役割を果たすことにより、解決してくれる。実際に、中小製造業と中小製造業をつなぎモノ作りに活かしたり、中小クリーニング店と生活者をつなぎ事業者の思考の枠を超えた生活者視点によるサービス開発に活かした事例など、クラウドソーシングによる中小企業のオープン・イノベーションの事例も存在していることが解った。

4. 結論

中小企業におけるクラウドソーシング活用の利点を明らかにし、中小企業の高い専門性と外的資源を活かすオープン・イノベーションの可能性に注目した。

従来のオープン・イノベーション課題である、中小企業のネットワーク力の課題をクラウドソーシングサービスが解決してくれることにより、従来よりも中小企業と外部事業者又は生活者との連携が可能になると考えられる。また、クラウドソーシングによるオープン・イノベーションは、技術革新的側面だけでなく生活者視点による新たなサービスの創出も期待される。今日、クラウドソーシングが一般的に普及しているとは言い難いが、今後、中小企業がクラウドソーシングを活用するか否かで競争力に大きな差が生まれてくると予想される。